

年間研修計画の工夫

高等学校

全ての生徒を支援する体制の構築に向けた校内研修の取組

活用した資料

校内研修プログラム P46
 —実態把握、支援方法の検討—
 校内研修プログラム P50
 —学級づくり—

○ 実践の概要

本校では、特別支援教育に係る独自調査の結果により、特別な教育的支援が必要な生徒が5割程度在籍していることが明らかとなったことから、個別の指導や支援を充実するとともに、全ての生徒を支援する体制の構築に向けた校内研修を実施することとしました。

○ 第1回校内研修【「理解する」】（4月）

- ・本校に在籍する発達障がいを含む特別な教育的支援が必要な生徒について、教職員間で実態の共通理解を図りました。
- ・落ち着いた教室環境の構築（「〇〇高校授業のルール 10か条」など）と授業のユニバーサルデザイン化について、資料を基に検討しました。

○ 第2回校内研修【「手立てを考える」】（7月）

- ・生徒の実態を理解する力を向上させるための事例検討を行いました。
- ・支援チェックシート等を活用し、生徒の実態や困難の状況を考慮した適切な指導や支援の手立てを考える演習を行いました。

○ 第3回校内研修【「連携する」】（11月）

- ・スクールソーシャルワーカー派遣事業を活用し、校内の支援体制の構築に向けた組織づくり及び関係機関との連携について理解を深めました。

○ 第4回校内研修【支援の実践】（1月）

- ・教育局の特別支援教育スーパーバイザーによる講話において、校内研修プログラムを活用し、「実態把握、支援方法の検討」、「教師の言葉かけ」などの演習を行い、教職員の指導力の向上を図りました。

〇〇高校 授業のルール10か条

1. タイムが鳴る前に着席する
2. 授業開始と終わりの挨拶をきちんとする
3. 身だしなみを整える
4. 授業道具を忘れずに持ってくる
5. 授業前に教科書・ノート等を準備する
6. 授業中は先生の指示を聞く
7. 私語はしない
8. 居眠りはしない
9. 課題や提出物の期限を守る
10. 授業に積極的に参加する

【授業のルール10か条の提示】



【事例検討の様子】

○ 実践の成果

本取組では、研修の成果を積極的に実践に生かすことにより、教室環境の工夫や落ち着いた雰囲気づくりに努める学級が増えてきました。

また、発達障がいのある生徒など、特別な教育的支援を必要とする生徒に対して、校内組織での対応だけでなく、外部の関係機関と連携して指導や支援の充実を図る取組の必要性が確認されました。